

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年8月12日
【四半期会計期間】	第50期第1四半期（自平成23年4月1日至平成23年6月30日）
【会社名】	株式会社ダスキン
【英訳名】	DUSKIN CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 山村輝治
【本店の所在の場所】	大阪府吹田市豊津町1番33号
【電話番号】	06(6387)3411(大代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 鶴見明久
【最寄りの連絡場所】	大阪府吹田市豊津町1番33号
【電話番号】	06(6387)3411(大代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役 鶴見明久
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第49期 第1四半期連結 累計期間	第50期 第1四半期連結 累計期間	第49期
会計期間	自平成22年4月1日 至平成22年6月30日	自平成23年4月1日 至平成23年6月30日	自平成22年4月1日 至平成23年3月31日
売上高(百万円)	43,950	42,909	177,320
経常利益(百万円)	3,335	3,125	12,613
四半期(当期)純利益(百万円)	863	1,692	5,248
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	959	1,903	4,384
純資産額(百万円)	146,608	146,401	148,565
総資産額(百万円)	195,256	190,686	198,876
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	13.03	26.11	79.39
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)			
自己資本比率(%)	74.7	76.3	74.3

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。
4. 第49期第1四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。なお、フランチャイズ育成投資事業有限責任組合は、当第1四半期連結会計期間において清算を完了しております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び当社の関係会社）が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日～平成23年6月30日）の我が国経済は、長期にわたる円高、原油価格や原材料価格の高止まりに加え、東日本大震災の影響等で厳しい状況が続きました。また、電力供給不足の懸念や海外経済の動向等、先行きの見極めも困難な状況となりました。

東日本大震災に対しましては、避難所へマットやモップ等の衛生関連商品やミスタードーナツの商品をお届けする等の支援活動を行いながら、フランチャイズ加盟店を含む当社グループの被災した営業所やショップの復旧に全力をあげております。しかしながら、第1四半期末時点では、クリーングループ営業拠点4拠点、洗浄・物流を担う総合工場1工場、ミスタードーナツショップ5店舗（何れもフランチャイズ加盟店の拠点も含む）の営業活動が再開できていない状況です。

このような環境の中、中期経営方針の2年目に当たる当平成24年3月期、当社は、お客様の要望に今まで以上に迅速に対応できる体制作りと、お客様及び市場のニーズを的確に捉えた商品開発、お客様にとってより便利な仕組み作り着手しております。

当第1四半期の業績につきましては、連結売上高は429億9百万円（前年同期比2.4%減）、連結営業利益は24億58百万円（前年同期比13.0%減）、連結経常利益は31億25百万円（前年同期比6.3%減）となりました。連結四半期純利益は、投資有価証券評価損や資産除去債務会計基準適用に伴う特別損失を計上した前年同期と比べますと96.1%増加し、16億92百万円となりました。

a.セグメント毎の状況

(a)クリーングループ

クリーングループにおきましては、お客様の利便性向上の視点から、新たな商品やお客様との接点作りに取り組みました。

一般ご家庭向けの清掃関連用具のレンタル及び清掃美化関連の役務サービスを手掛けるホームサービスにおきましては、前期から、新しいお掃除文化の浸透を目指して、フロアモップとダストクリーナーを使って、手間をかけずに気軽に行える“新おそうじスタイル”を中心に据えた営業活動に注力しております。加えて当第1四半期には、コンパクトでスタイリッシュなデザインで部屋の中に置いたままでも違和感がなく、いつでも気づいたときにすぐに使えるフロアモップ「LaLa」を4月より西日本で先行発売しました。また、役務サービスでは、お客様から見て明確で、且つ、安心してご利用いただけるよう全国一律のサービス料金に変更すると共に、4月からは、母の日・敬老の日、お中元・お歳暮といった社会催事や誕生日等のプレゼント需要やイベント等の賞品にもご利用いただける「ダスキン プロのおそうじギフト」（おそうじギフトカード）の販売も開始し、好評を得ております。好調な役務サービスの中でもエアコンクリーニングサービスは、電力供給不足懸念に伴う節電意識の高まりを背景に、順調に受注件数が増加しました。これらの結果、ホームサービス全体の売上高は前年同期を上回りました。

一方、事業所向けのサービスを手掛けるビジネスサービスは、前期から引続き空間清浄機「デオ」を活用した空間衛生サポート活動に注力しつつ、「ダスキンメンテナンス会」会員である飲食店向けの新サービス「拭き取り検査サービス」を使った厨房衛生サポート提案や新商品「カーペットブラシ」を活用したフロア衛生サポート提案等、新たな商品・サービスを使った提案型営業に努めました。また、東日本大震災に伴うオフィスや店舗の遮熱やガラスの飛散防止ニーズに対しては、「ガラス面フィルム施工サービス」等の新たなメニューも用意しました。しかしながら、経費削減意識の更なる高まりにより、ビジネスサービス全体の売上高は前年同期を下回りました。

その他の事業は、ドリンクサービス事業は好調に推移しましたが、ユニフォームサービス事業は大口顧客の解約により、また、レントオール事業は東日本大震災によるイベントの自粛、節電等により、前年同期の売上高を下回りました。

以上の結果、クリーニンググループ全体の売上高は、284億69百万円（前年同期比0.7%減）、営業利益は35億27百万円（前年同期比0.5%減）となりました。

(b) フードグループ

フードグループにおきましては、お客様層の拡大とお客様との接点拡充に注力しました。

事業開始から41年目に入ったミスタードーナツ事業は、お客様層の拡大を目指して、油で揚げずオーブンでじっくり焼いたドーナツ「焼きド」を5月に全国発売しました。集中的に広告展開し売上増加に寄与したものの、東日本大震災による消費マインドの冷え込み等による落ち込みをカバーするには至らず、全体の売上高は前年同期を下回りました。また、お客様との接点拡充を図るべく出店にも注力し、6月1日にはキッチンレスのテイクアウト専門店（大阪・北大阪急行電鉄桃山台駅改札前）をオープンしました。これを皮切りに、利用者が多い駅ビルや駅構内等新たなお客様の獲得につながる出店を進めてまいります。

その他の事業は、不採算店を閉鎖し稼働店舗数が減少したカフェデュモンド事業、海鮮丼チェーンを運営する株式会社どんの売上高は前年同期を下回りましたが、新規出店したかつアンドかつ事業の売上高は前年同期を上回りました。

以上の結果、フードグループ全体の売上高は、118億7百万円（前年同期比5.7%減）、営業利益は3億91百万円（前年同期比59.6%減）となりました。

(c) その他

株式会社ダスキンヘルスケアで展開しております病院施設のマネジメントサービスは、4月に大口契約を獲得したことにより前年同期を上回りました。

海外のダストコントロール事業及びミスタードーナツ事業につきましては、既存展開地域は順調に推移する中、展開地域の拡大を目指した取り組みにも注力しました。

以上の結果、その他の売上高は26億32百万円（前年同期比3.9%減）、営業利益は3億10百万円（前年同期比188.3%増）となりました。

なお、上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、1億78百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成23年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年8月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	67,394,823	67,394,823	東京証券取引所 大阪証券取引所 (各市場第一部)	単元株式数 100株
計	67,394,823	67,394,823		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年4月1日～ 平成23年6月30日		67,394,823		11,352		1,090

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年3月31日）に基づく株主名簿による記載を行っております。

【発行済株式】

平成23年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,092,400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 65,220,100	652,201	
単元未満株式	普通株式 82,323		
発行済株式総数	67,394,823		
総株主の議決権		652,201	

【自己株式等】

平成23年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数(株)	他人名義 所有株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ダスキン	大阪府吹田市豊津 町1番33号	2,092,400		2,092,400	3.10
計		2,092,400		2,092,400	3.10

(注)平成23年6月30日現在で保有している自己株式は、2,998,904株(発行済株式総数の4.44%)であります。

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間末までにおいて、役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第1四半期連結会計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)及び当第1四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,733	15,026
受取手形及び売掛金	12,353	11,795
リース投資資産	1,864	1,901
有価証券	13,017	9,006
商品及び製品	6,297	7,531
仕掛品	155	202
原材料及び貯蔵品	1,956	2,011
繰延税金資産	2,982	2,172
その他	3,065	3,136
貸倒引当金	63	44
流動資産合計	60,364	52,739
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	41,099	41,040
減価償却累計額	22,376	22,554
建物及び構築物(純額)	18,722	18,485
機械装置及び運搬具	21,680	21,587
減価償却累計額	15,130	15,231
機械装置及び運搬具(純額)	6,550	6,356
土地	23,818	23,818
建設仮勘定	142	271
その他	12,207	12,231
減価償却累計額	8,051	8,265
その他(純額)	4,155	3,965
有形固定資産合計	53,389	52,897
無形固定資産		
のれん	294	304
その他	6,485	6,268
無形固定資産合計	6,779	6,573
投資その他の資産		
投資有価証券	59,955	60,176
長期貸付金	115	241
繰延税金資産	8,417	8,265
差入保証金	8,735	8,617
その他	1,334	1,417
貸倒引当金	214	243
投資その他の資産合計	78,343	78,476
固定資産合計	138,512	137,947
資産合計	198,876	190,686

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	7,322	6,749
1年内返済予定の長期借入金	116	109
未払法人税等	2,651	433
賞与引当金	3,542	1,632
ポイント引当金	506	460
災害損失引当金	671	50
資産除去債務	254	245
未払金	6,962	6,662
レンタル品預り保証金	10,792	10,470
その他	4,615	4,477
流動負債合計	37,436	31,290
固定負債		
長期借入金	245	222
退職給付引当金	11,112	11,397
債務保証損失引当金	117	90
資産除去債務	398	389
長期預り保証金	833	822
長期未払金	140	63
負ののれん	17	-
その他	8	7
固定負債合計	12,874	12,994
負債合計	50,311	44,285
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	13,076	13,076
利益剰余金	129,619	128,700
自己株式	3,301	4,746
株主資本合計	150,747	148,383
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,528	2,420
繰延ヘッジ損益	1	10
為替換算調整勘定	477	442
その他の包括利益累計額合計	3,007	2,873
少数株主持分	825	891
純資産合計	148,565	146,401
負債純資産合計	198,876	190,686

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
売上高	43,950	42,909
売上原価	23,724	23,149
売上総利益	20,225	19,760
販売費及び一般管理費	17,400	17,301
営業利益	2,824	2,458
営業外収益		
受取利息	210	224
受取配当金	122	125
設備賃貸料	35	37
受取手数料	67	54
負ののれん償却額	1	17
持分法による投資利益	22	29
営業権譲渡益	5	72
雑収入	121	145
営業外収益合計	586	706
営業外費用		
支払利息	18	1
為替差損	-	9
賃貸借契約解約損	23	-
雑損失	34	27
営業外費用合計	76	39
経常利益	3,335	3,125
特別利益		
固定資産売却益	6	-
貸倒引当金戻入額	13	-
債務保証損失引当金戻入額	12	-
その他	18	0
特別利益合計	50	0
特別損失		
固定資産売却損	13	1
固定資産廃棄損	52	26
投資有価証券評価損	768	0
災害による損失	-	115
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	491	-
その他	66	15
特別損失合計	1,393	157
税金等調整前四半期純利益	1,992	2,969
法人税等	1,121	1,214
少数株主損益調整前四半期純利益	870	1,754
少数株主利益	7	62
四半期純利益	863	1,692

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	870	1,754
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	47	108
繰延ヘッジ損益	-	8
為替換算調整勘定	24	36
持分法適用会社に対する持分相当額	16	12
その他の包括利益合計	88	148
四半期包括利益	959	1,903
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	941	1,826
少数株主に係る四半期包括利益	17	76

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	
連結の範囲の重要な変更	連結子会社であったフランチャイズ育成投資事業有限責任組合は、当第1四半期連結会計期間において清算を結了したため連結の範囲から除外しております。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	
税金費用の計算	連結子会社の税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

【追加情報】

当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)	
当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。	

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)				当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)			
偶発債務 連結会社以外の会社の金融機関からの借入金に対して債務保証を行っております。				偶発債務 連結会社以外の会社の金融機関からの借入金に対して債務保証を行っております。			
ミスタードーナツ加盟店 (事業者融資保証)				ミスタードーナツ加盟店 (事業者融資保証)			
(株)フジタコーポレーション	85	百万円		(株)フジタコーポレーション	77	百万円	
(株)サン・ウッド	67	百万円		(株)サン・ウッド	57	百万円	
栗豊(株)	35	百万円		栗豊(株)	30	百万円	
その他	46	件	288	その他	45	件	226
協力工場 (協栄工場融資保証)				協力工場 (協栄工場融資保証)			
(株)山陰ダスキン工場	83	百万円		(株)山陰ダスキン工場	80	百万円	
太洋ドライクリーニング(株)	12	百万円		太洋ドライクリーニング(株)	11	百万円	
(株)北越ダスキン協栄工場	11	百万円		(株)北越ダスキン協栄工場	10	百万円	
当社従業員 (厚生貸付保証)	89	件	120	当社従業員 (厚生貸付保証)	83	件	115
合計			704	合計			609

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、のれんの償却額及び負ののれんの償却額は、次のとおりであります。

前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)		当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)			
減価償却費	1,525	百万円	減価償却費	1,569	百万円
のれんの償却額	36	百万円	のれんの償却額	33	百万円
負ののれんの償却額	1	百万円	負ののれんの償却額	17	百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月24日 定時株主総会	普通株式	2,649	40	平成22年3月31日	平成22年6月25日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月23日 定時株主総会	普通株式	2,612	40	平成23年3月31日	平成23年6月24日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	クリーン グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	28,683	12,527	2,739	43,950		43,950
セグメント間の内部売上高 又は振替高	215	16	652	884	(884)	
計	28,899	12,543	3,391	44,834	(884)	43,950
セグメント利益	3,544	968	107	4,620	(1,795)	2,824

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、病院のマネジメントサービス、事務用機器及び車両のリース、保険代理業及び海外事業等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額1,795百万円には、セグメント間取引消去4百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用1,791百万円が含まれております。
3. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第1四半期連結累計期間において、のれんの金額に重要な影響を及ぼす事象はありません。

なお、のれんの当第1四半期連結累計期間の償却額及び当第1四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	クリーン グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第1四半期連結累計期間償却額	35	0	0		36
当第1四半期連結会計期間末残高(注)	358	12	15		386

- (注) 当第1四半期連結会計期間末残高の主な内容は、平成20年7月に取得した株式会社アミ・コーポレーション(現在は株式会社ダスキンサーヴ東北と統合)ののれん残高187百万円(クリーングループ)と当社及び連結子会社が過去に複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高133百万円(クリーングループ)等であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	クリーン グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	28,469	11,807	2,632	42,909		42,909
セグメント間の内部売上高 又は振替高	217	1	601	820	(820)	
計	28,686	11,809	3,233	43,729	(820)	42,909
セグメント利益	3,527	391	310	4,228	(1,770)	2,458

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、病院のマネジメントサービス、事務用機器及び車両のリース、保険代理業及び海外事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額1,770百万円には、セグメント間取引消去14百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用1,756百万円が含まれております。

3. セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第1四半期連結累計期間において、のれんの金額に重要な影響を及ぼす事象はありません。

なお、のれんの当第1四半期連結累計期間の償却額及び当第1四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位:百万円)

	クリーン グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第1四半期連結累計期間償却額	31	0	0		33
当第1四半期連結会計期間末残高(注)	282	10	12		304

(注)当第1四半期連結会計期間末残高の主な内容は、平成20年7月に取得した株式会社アミ・コーポレーション(現在は株式会社ダスキンサーヴ東北と統合)ののれん残高125百万円(クリーングループ)と当社及び連結子会社が過去に複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高111百万円(クリーングループ)等であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	13円03銭	26円11銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	863	1,692
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	863	1,692
普通株式の期中平均株式数(千株)	66,236	64,837

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年 8月12日

株式会社ダスキン
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石橋 正紀

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 西原 健二

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊藤 嘉章

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ダスキンの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ダスキン及び連結子会社の平成23年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

（注）1．上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2．四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。